

人為的な生態系の攪乱状況（外来種と在来種の分布状況）

近年、輸入農作物に紛れ込んだ種や植物検疫の対象ではない輸入ベトナム昆虫などの自然界への逸出などに伴って、本来は日本に生息しない海外の生物種が侵入し、自然界へ広がっている例が数多くみられます。

このような人の活動に伴う生物の移動と再野生化により、生態的に優勢な外来種によって在来種が減少したりしています。また、外来カブトムシなどのように自然界では起こらない交雑によって雑種が生まれ、地域で保有されていた固有な遺伝子の喪失が懸念されています。

ここでは、人為的な生態系の攪乱状況を明らかにするために、外来種や、それらと生態的に競合する在来種の確認状況について整理しました。

【アオマツムシ、シバツトガ、アメリカミズアブ、ミスジキイロテントウ、ラミーカミキリ、ブタクサハムシ、イネミズゾウムシ、シバオサゾウムシの確認状況】（陸上昆虫類等調査）

• ブタクサハムシが急速に分布を拡大

外来種の定着状況について見るため、アオマツムシ、シバツトガ、アメリカミズアブ、ミスジキイロテントウ、ラミーカミキリ、ブタクサハムシ、イネミズゾウムシ、シバオサゾウムシの8種を取り上げました。

近年侵入が記録されたブタクサハムシは、今回とりまとめを行った21河川のうち、東北地方から九州地方の13河川で確認されました。これらの21河川では、前回調査、前々回調査では確認されていないことから、近年、急激に分布を拡大した様子が認められました。

シバオサゾウムシの確認河川数は、前回調査、前々回調査では確認されませんでした。今回調査では関東地方から九州地方にかけての3河川で確認されました。

同じく芝の害虫であるシバツトガは、前回調査では9河川、今回調査でも9河川と横這いでした。

ミスジキイロテントウは、前回調査では中国地方の佐波川の1河川のみでの出現でしたが、今回調査では近畿地方以西の3河川で確認されました。

その他のアメリカミズアブやアオマツムシなど古くから侵入が知られている外来種についても、確認河川数の増加が見られました。前回および今回の調査を通して行っている21河川での確認状況を見ると、全ての外来種で確認河川数が増えています。

（資料掲載: 6-15～6-22、6-24 ページ）

確認河川数の比較 (対象河川: 21 河川)

種類	前々回調査	前回調査	今回調査
アオマツムシ	7 河川	9 河川	11 河川
シバツトガ	6 河川	9 河川	9 河川
アメリカミズアブ	9 河川	15 河川	16 河川
ミスジキイロテントウ	0 河川	1 河川	3 河川
ラミーカミキリ	7 河川	9 河川	12 河川
ブタクサハムシ	0 河川	0 河川	13 河川
イネミズゾウムシ	12 河川	12 河川	15 河川
シバオサゾウムシ	0 河川	0 河川	3 河川

中国大陸原産のアオマツムシは、1917年に東京で見つかって以来、各地に広がっており、秋の夜に植木や街路樹の上からリーリーリイリイと鳴く声が聞こえます。調査結果からは、近年も拡大を続けている様子が見えます。

ミスジキイロテントウは、国内では1985年に沖縄本島で発見されたのが最初で、以降本州などでも見つかっています。芝により持ち込まれたと言われています。

ラミーカミキリは、明治初期に中国大陸から輸入された麻植物について移入したと考えられており、成虫はラミー、カラムシ、ムクゲなどの葉や茎を食べます。

ブタクサハムシは、もともと北米産の種ですが1996-97年に関東地方と関西地方で、ほぼ同時期に発見され、急速に分布を拡大していることが知られています。今回の調査結果からも、ブタクサやオオブタクサを食草にしている本種が急速に分布を拡大していることがうかがえます。

イネミズゾウムシは、北米原産地で、1975年に愛知県で発見されて以降、1986年には日本全国に分布が広がったと言われています。稲の害虫として知られていますが、イネ以外にもイヌビエ、ムツオレグサ、チゴザサ、マコモ、サヤヌカグサ、ホタルイ、オモダカなどを食草としています。今回の調査結果からは、本種が水田の害虫としてだけでなく、日本の河川環境にも定着していることがうかがえます。

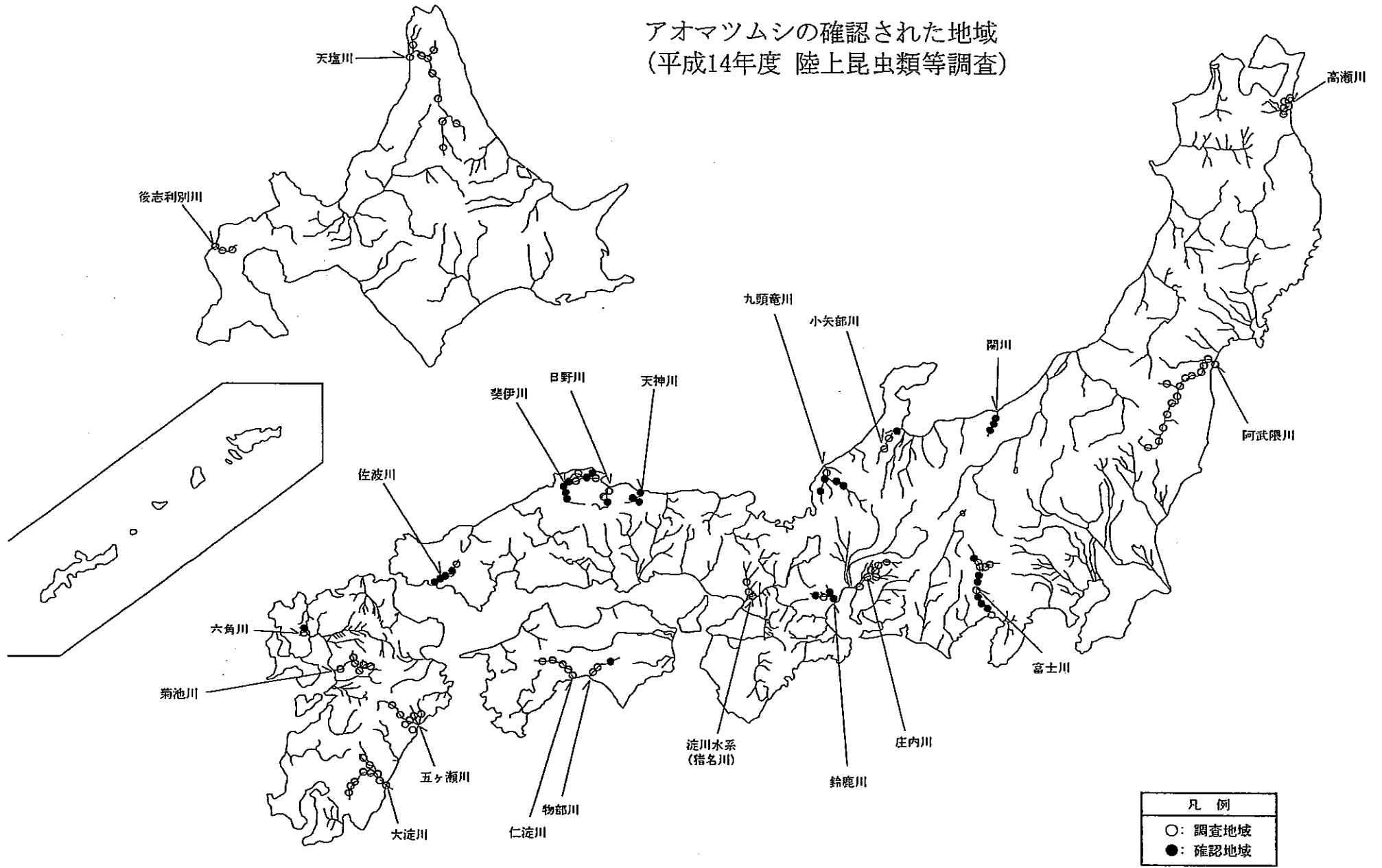
シバオサゾウムシは、芝の害虫として知られ、ゴルフ場などを通じて各地に広がっています。今回の調査では、3河川で確認されました。

シバツトガは、1964年に兵庫県のゴルフ場で芝の輸入とともに進入したとされ、以後各地のゴルフ場などへ急速に広がっています。今回の調査結果からは、河川でも分布を拡大している様子が見えます。

アメリカミズアブは、体長1~2cmの北アメリカ原産ハエ類で、1950年頃東京で見つかり、夏から秋にかけて多く見られます。市街地から山地まで普通に生息し、畑の脇に捨てられた野菜のくずや生ゴミなどにもよく発生します。

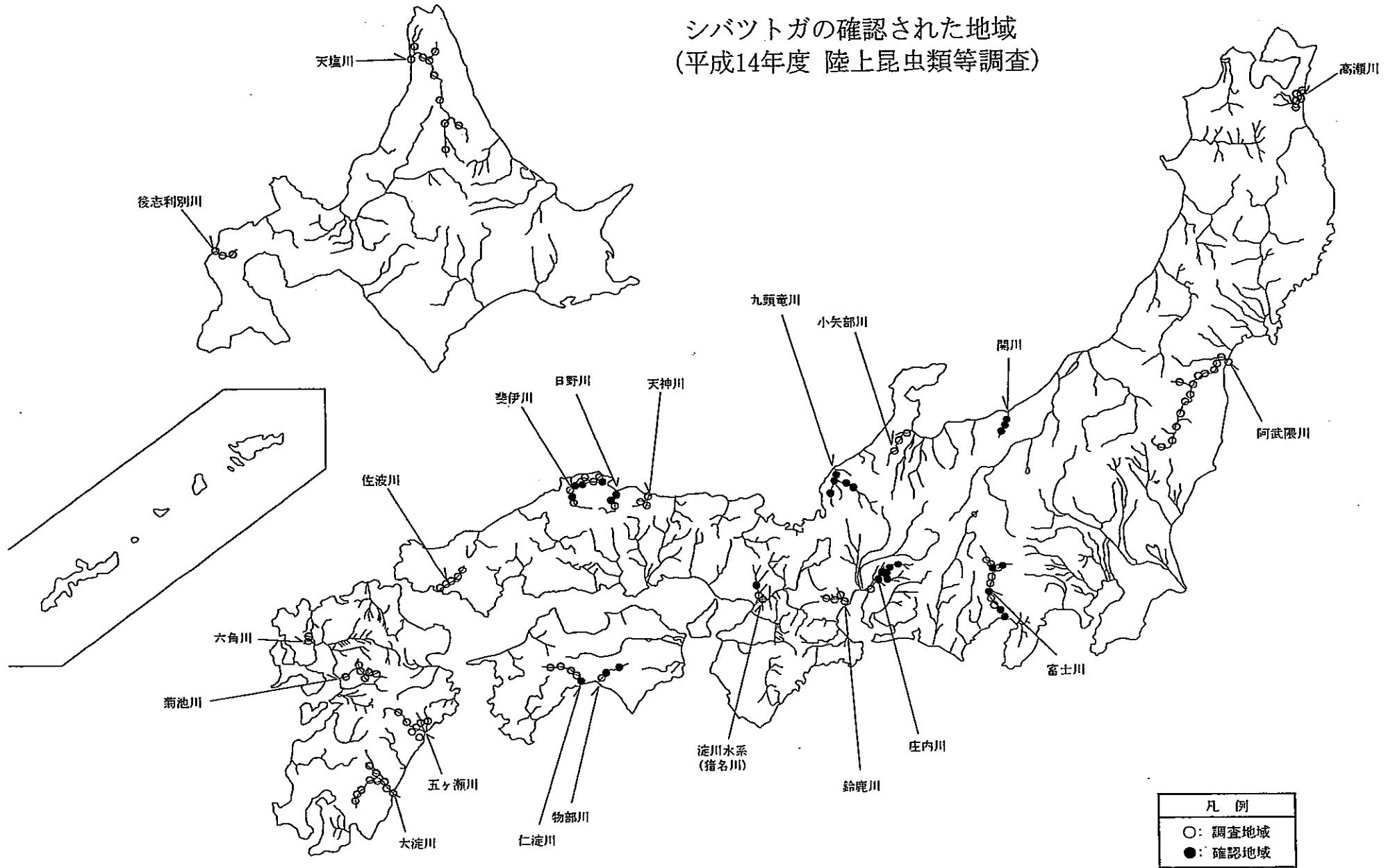
以上のほぼ全ての外来昆虫で確認河川数は増加しており、河川環境の中で確実に定着している種が多いと考えられます。

アオマツムシの確認された地域
(平成14年度 陸上昆虫類等調査)

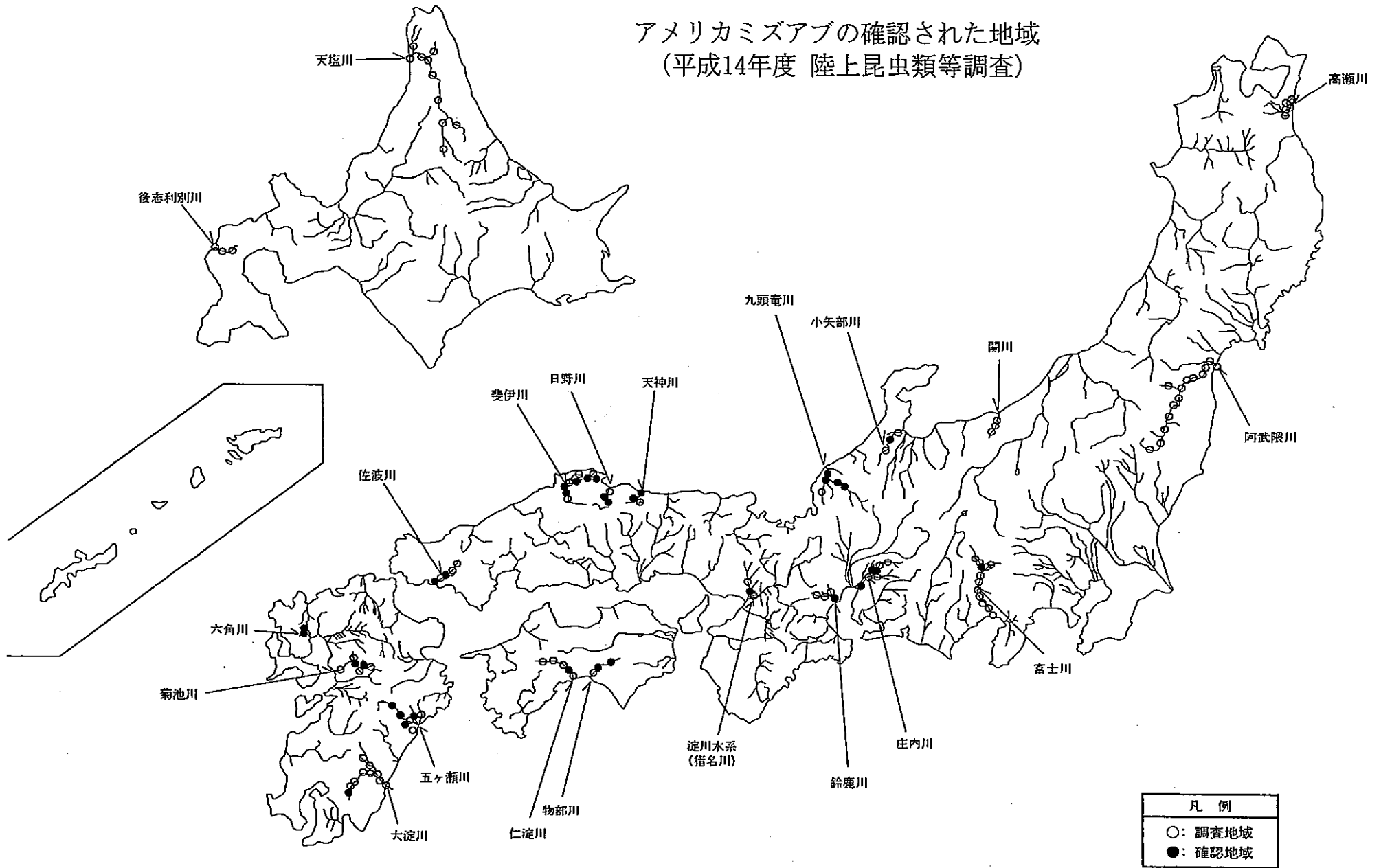


注) ○印はおおよその調査地域の位置を示す。

シバツトガの確認された地域
(平成14年度 陸上昆虫類等調査)



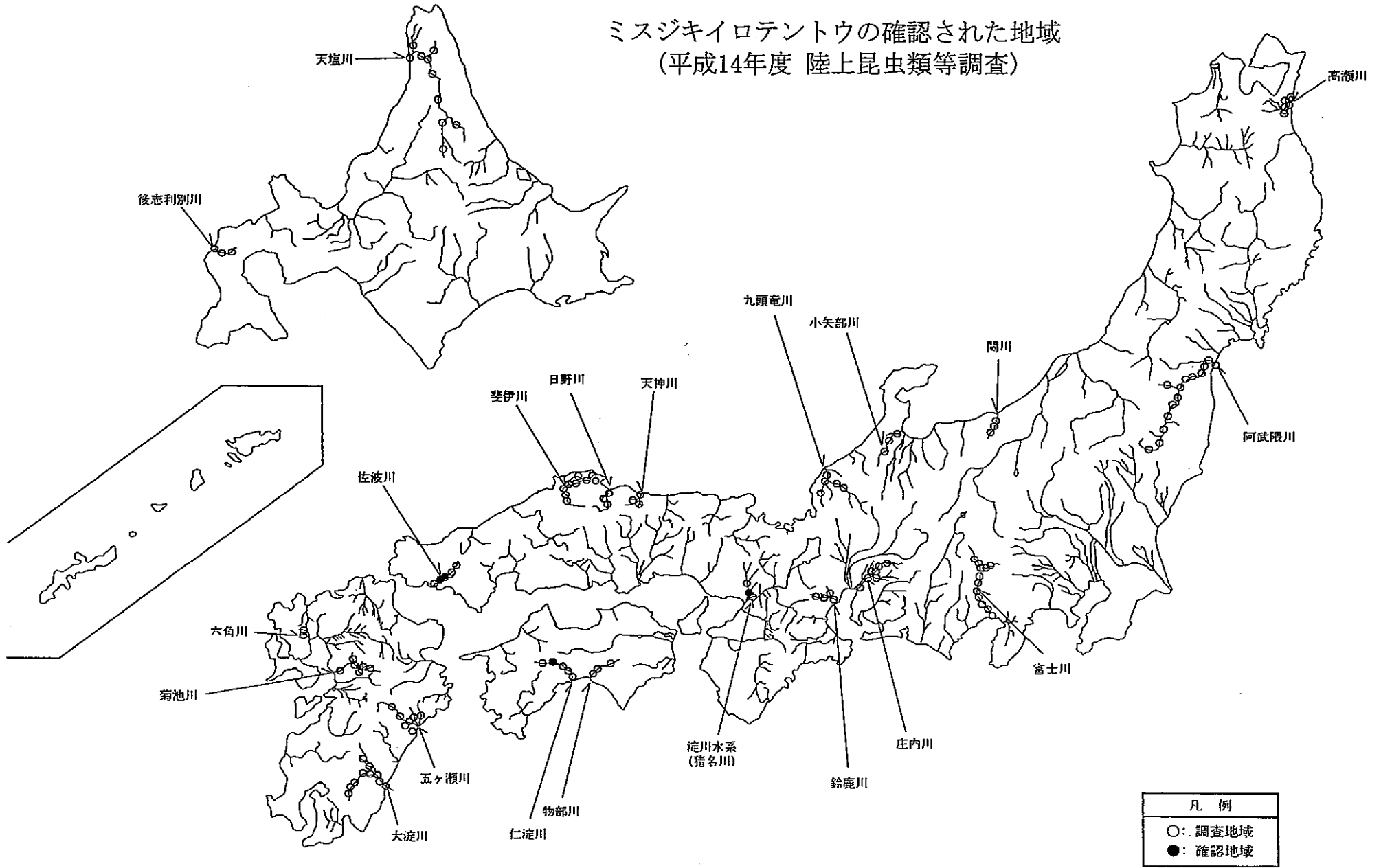
アメリカミズアブの確認された地域
(平成14年度 陸上昆虫類等調査)



凡例	
○	調査地域
●	確認地域

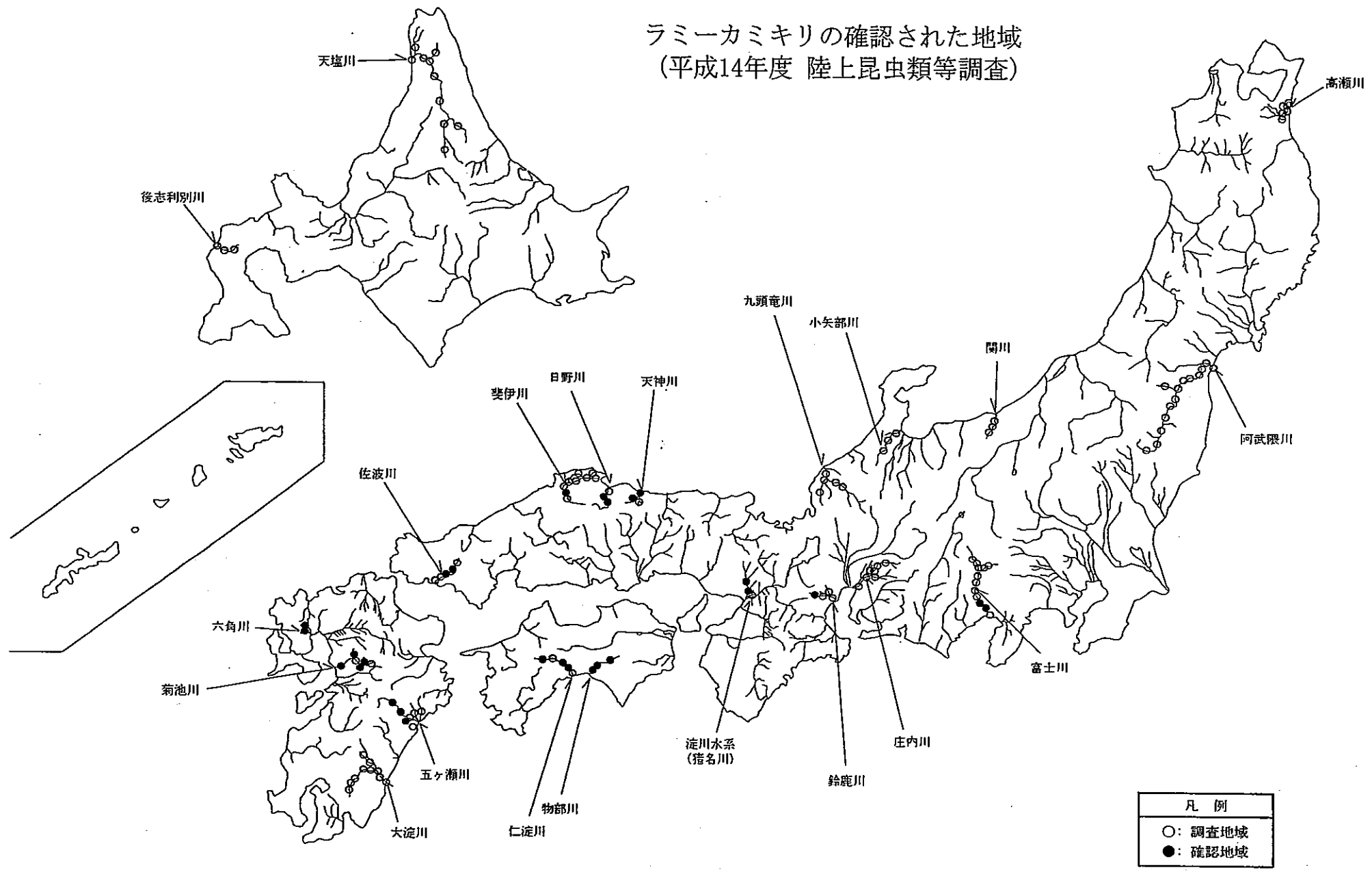
注) ○印はおおよその調査地域の位置を示す。

ミスジキイロテントウの確認された地域
(平成14年度 陸上昆虫類等調査)



注) ○印はおおよその調査地域の位置を示す。

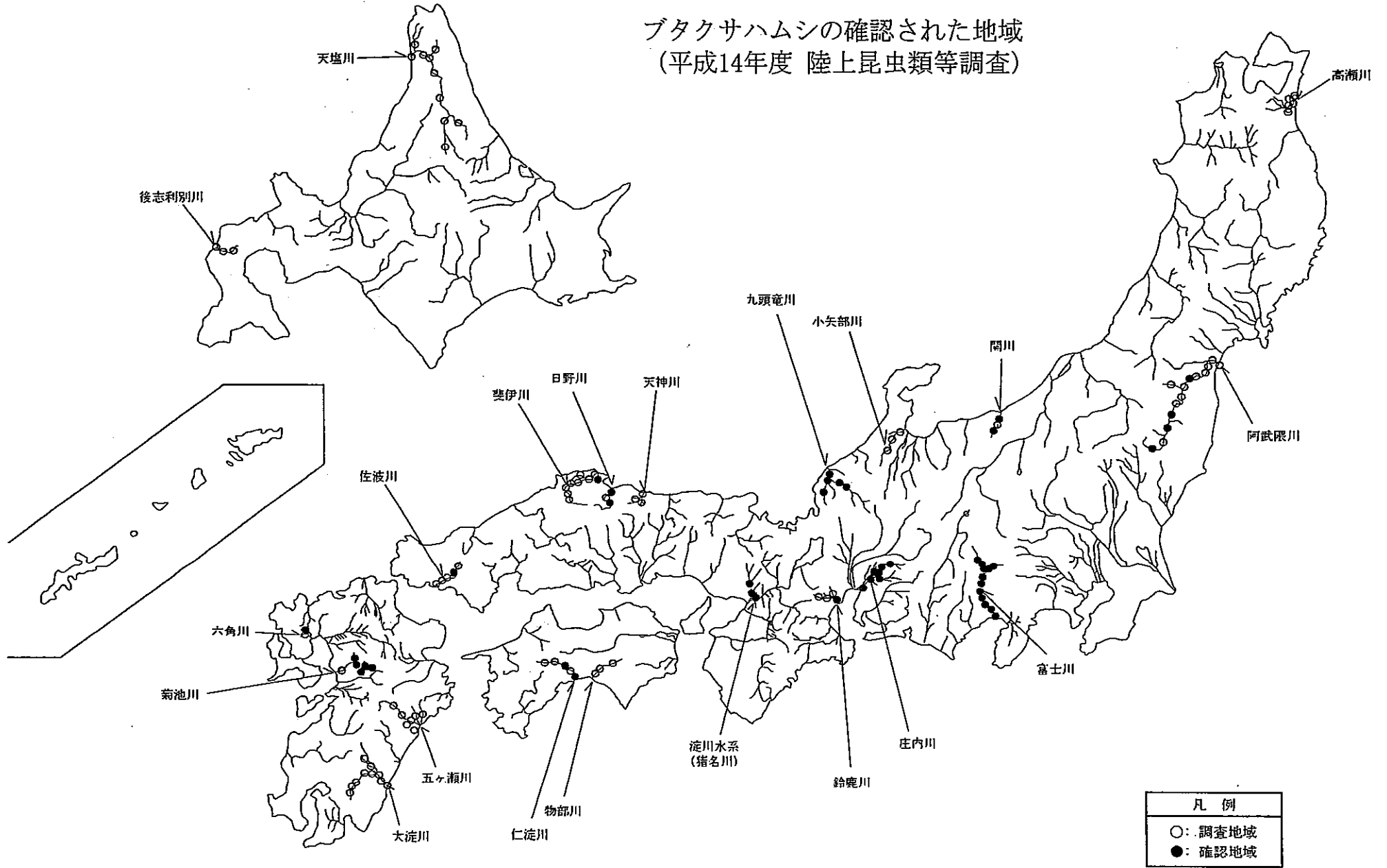
ラミーカミキリの確認された地域
(平成14年度 陸上昆虫類等調査)



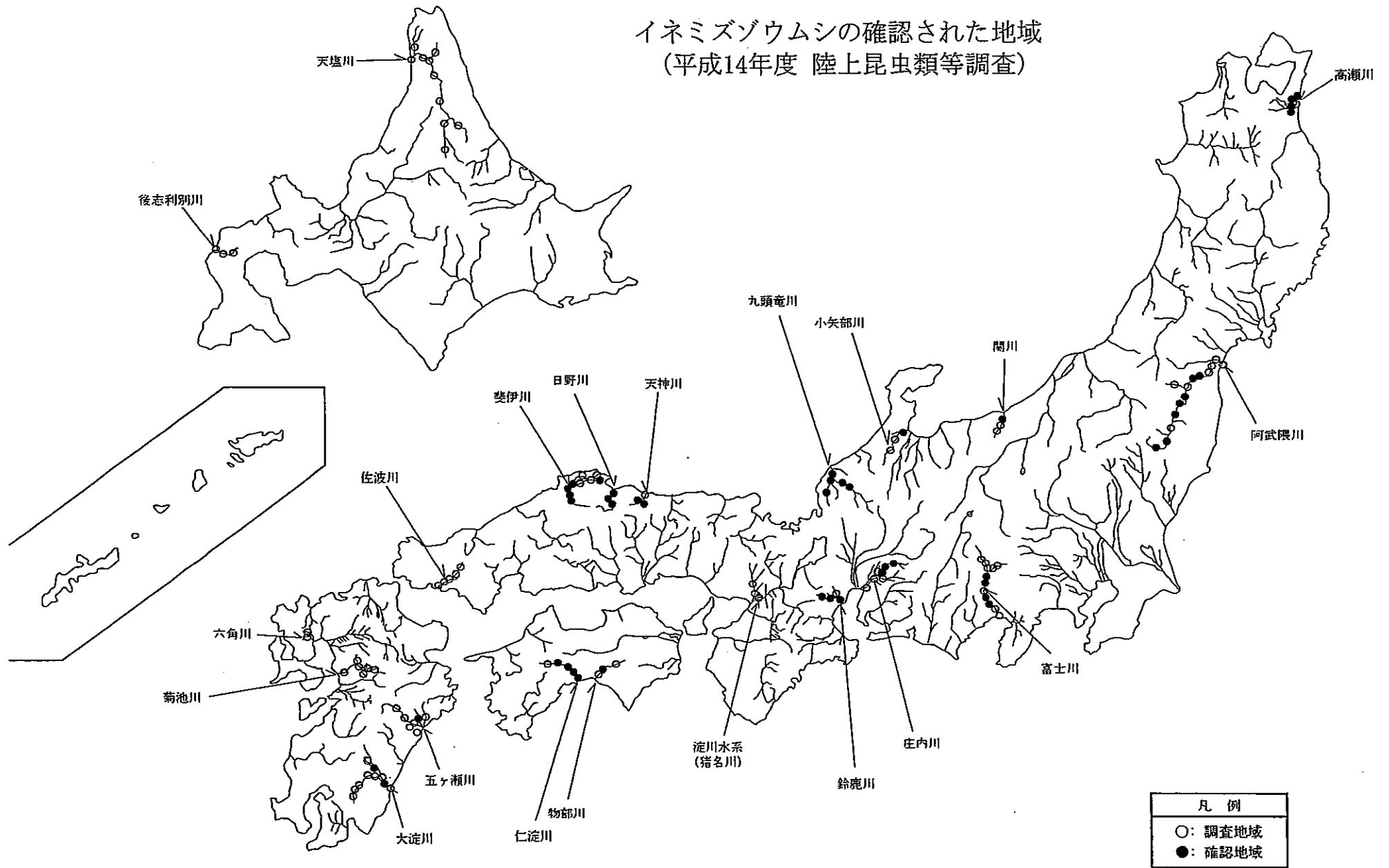
凡例	
○	調査地域
●	確認地域

注) ○印はおおよその調査地域の位置を示す。

ブタクサハムシの確認された地域
(平成14年度 陸上昆虫類等調査)

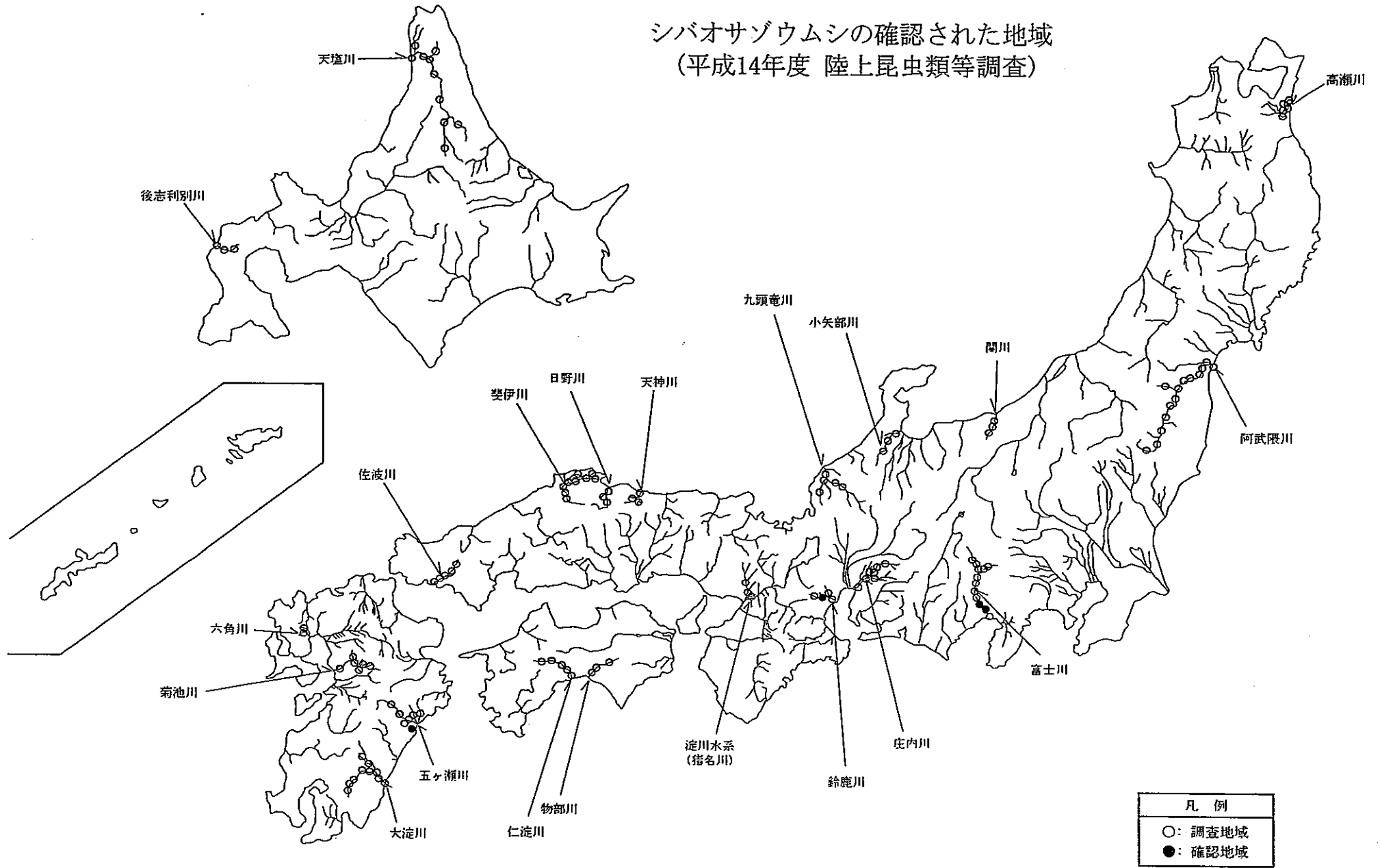


イネミズゾウムシの確認された地域
(平成14年度 陸上昆虫類等調査)



注) ○印はおおよその調査地域の位置を示す。

シバオサゾウムシの確認された地域
(平成14年度 陸上昆虫類等調査)



注) ○印はおおよその調査地域の位置を示す。